



かがわ 香川 晋平氏

プロフィール

95年(平7)関西大商卒。公認会計士・税理士。同年センチュリー監査法人(現・新日本有限責任監査法人)入社、03年オンテックス入社、05年香川会計事務所入社。兵庫県出身、38歳。

「当初、キーワードで『赤字社員』と『黒字社員』を提案したが、なんのことも分らないので何か言葉を付けようと出版社と相談し、決めた。住宅リフォーム会社の経営者として社員

著者 登場

を見てきた体験から学歴と評価は関係がない。東大卒と中卒が逆になる現実が少なくないことが分かった」

「読みやすい本ですが伝えなかったことは、

「社員3人に1人が会社の利益を減らす『赤字社員』だ。自分の仕事は会社の利益に貢献する『黒字社員』か『赤字社員』かを判断でき、『黒字社員』に交身できる手法も解説した」

「現在、母校の関西大学や就活学生向けセミナーの講師をしている。就活学生は志望会社を

東大卒でも赤字社員 中卒でも黒字社員

(経済界刊、03・3503・1212)

利益に貢献する人材目指せ

「ビジネスマンが対象だ。この時期は給料が安いとか、処遇不満とかで転職を考える人が出る。待て、と言いたい。自分が会社の利益に貢献しているか、よく考えてほしい。『入社3年で3割の退職』は企業も社員も不幸だ。自己能力を勘違いして転職、次の会社でも何も貢献できずに転職を繰り返す。転職は『黒字社員』になって考えるべきだ」

「昨今の就活学生を指導しての感想は、

「職業意識が低く、志望動機にも自分のどんな能力を發揮し会社に貢献しようという夢、決意が乏しい。面接で大阪に引き続き住みたいから、と最初に言ったりする。コミュニケーションが苦手な学生も多い」

「昔は公認会計士も税理士も人数が少なく業界は守られていた。今は過剰で不況業種だ。顧客満足度の高いサービスが提供できるブランド力が必要だ。事務所に入る時に公認会計士の父から能力を磨けと言われた。その一つが本を書ける能力。夢は企業会計から社員教育、人材育成ができるオンリー・ワン事務所を目指す」(神戸・中西嘉)

「入社3、4年目の、仕事を覚えて天狗になりつつある20代の

